

第255回鳳雛講座 令和7年7月2日(水)

7月2日(水)に今年度2回目の鳳雛講座を行いました。講師は、大館市立総合病院リハビリ科にお勤めの理学療法士：齋藤嘉彰さんが務めてくださいました。理学療法士の仕事内容はもちろんのこと、やりがいや一中学生に頑張ってもらいたいことも話していただき、参加した生徒は熱心に聞き入るとともに、今後の生き方につなげたいと感じていた様子が見られました。

患者さんの笑顔をあきらめない

齋藤 嘉彰さん

【理学療法士】

○講話の内容

・理学療法士とは…

医師の指示のもとに、身体に障害のある方に対して、体を起こす、立つ、歩くなどの基本的動作能力の回復を図るために、運動療法や物理療法を行っている。

・理学療法士の仕事とやりがい…

働く場所は、8～9割が病院や老人ホーム等の施設であり、他には、教育やスポーツ、行政や企業で働くことができる。そして、患者さんの希望や目標に応じて運動療法やマッサージ等の物理療法によって、基本的動作能力の回復を図っていく。

理学療法士は患者の希望に対して二人三脚で取り組む。リハビリがうまくいった、いかなかったなど、患者さんと苦楽を共有したり、患者さんの希望が達成できたときに喜びを共有したりする。患者さんの希望が叶ったあとの「ありがとう」が一番の喜びであり、やりがいを感じる。

○結びに

理学療法士は信頼関係があって成り立つ仕事である。特に中学校では「礼儀がしっかりできること」、「人の話を聞くことができること」、「相手を思いやることができること」を育ててほしい。

○生徒の感想から

・理学療法士という仕事はあまり知らなかったが、とてもやりがいを感じる仕事だと思った。自分が骨折しても、笑顔を忘れないようにしたい。

・けがや病気をした患者さんが元気に楽しく過ごすためのサポートをするために、国家資格を獲得し、患者さんの希望に沿ったリハビリをしていることに驚いた。前にけがをした祖父や祖母も理学療法士の手厚いサポートのおかげで今は元気に暮らせているのかなと思った。

・理学療法士という仕事は知らなかったが、患者さんの基本的運動能力を回復させたり、叶えたいことをサポートしたりするということが分かった。どの仕事でも、信頼関係を築くということは大事だと思ったので、そのことを忘れずに将来に生かしたい。



